

栃木・法界寺跡

1 所在地 栃木県足利市樺崎町

2 調査期間 一九八四年(昭59)五月～六月、一九八五年一月～

二月、一九八六年四月

3 発掘機関 足利市遺跡調査団(足利市教育委員会)

4 調査担当者 前沢輝政・田村允彦・中山俊彦・山崎博章・大沢

伸啓・久保賢史

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 鎌倉時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(桐生及足利・栃木)

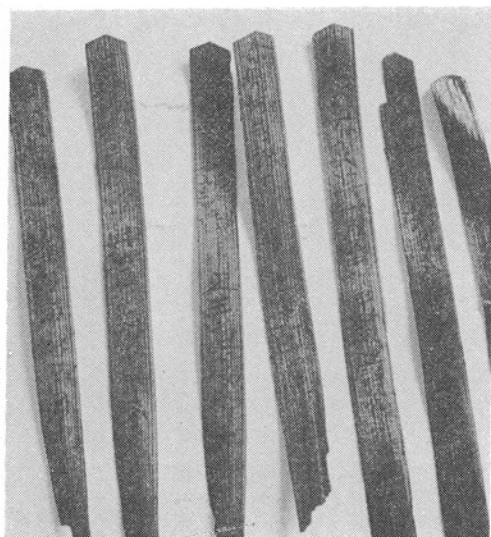
法界寺跡は、足利市街地より北東約四・五kmの山間地にあり、昭和五九年(一九八四)以来、足利市遺跡調査団が一次～三次の発掘調査(史跡整備のための確認調査)を行った。その結果、西側山腹に東面する堂塔跡(一次)、その前面(東側)の

低地には園池跡(二次)が確認され、その北部からは蔵骨器二個が並列状に出土、それに近接して建物跡を確認した。西方願生思想を表現した、鎌倉時代初期の浄土庭園形式の寺院跡と推定される。園池跡(鶴池跡)の西部には立石を伴う小島跡があり、西側池汀の底から柿経が二つの塊状となり、相接するように出土した。

8 木簡の釈文・内容

柿経は本来一束のものが、池中にあったため自然に籜がはずれ二塊になったものとみられ、個々が頭を揃えた状態にあった。個々は笹の葉のごとく薄い柾目の材で、細長い短冊形を呈し、頭を山形、末端を平らに整え、多く下方に余白を残し、片面に経典を書写している。おおむね原形に近いものが多いが、すでに小破片となったものもあり、その総数は二〇〇〇枚に近い。一枚の原形は長さ約二五cm前後、幅一・二cmないし〇・七cmほどのもので、墨書は一行一七字位が多い。書体は楷書に近い字体で書かれており、判読可能なものもあるが、すでに墨が薄れ、あるいは全体に黒変が進行しており、読めないものもある。四枚の釈文を左に示そう。

- (1) 「弥勒白仏言世尊是人功德甚多無量無□ (235)×12×2 059
- (2) 「妙法蓮華経随喜功德品第十八」 250×12×2 051
- (3) 「妙法蓮華経卷第八 (103)×9×2 059



(前沢輝政)

(4) 「南無阿弥陀仏」

(176)×8×2 059

(1)は『妙法蓮華經』卷第六の「隨喜功德品」第十八中の經文であり、末尾の□は「辺」である。本柿經は「妙法蓮華經」であることが知られる。なお、前記の經文の解説には、網干善教氏（関西大学教授）の御教示をいただいた。

9 関係文献

前沢輝政「足利・法界寺址の調査」(『日本歴史』四六一号 一九八六年)

宮城・今泉城跡
いましづみ

- 1 所在地 宮城県仙台市今泉字久保田
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)四月～八月
- 3 発掘機関 仙台市教育委員会
- 4 調査担当者 佐藤 洋・斎野裕彦
- 5 遺跡の種類 集落跡・城館跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代後期～古墳時代・平安時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今泉城跡は、仙台市南東部名取川と広瀬川の合流点の東側約一・五kmにある標高約四mの自然堤防上に位置する。以前の調査で複合



(仙台)

遺跡であることが知られており、本調査においても確認された。主要な遺構は、一〇世紀、一二～一三世紀中頃(Ⅰ期)の集落跡、一三世紀後半～一四世紀初頭(Ⅱ期)・一四世紀前半～一五世紀後半(Ⅲ期)・一六世紀～一七世紀前半(Ⅳ期)・